



基調講演

倉敷地域基幹
相談支援センター施設長 永田 拓



防災視点の 利用者支援の実際は

平成30年の西日本豪雨で、私が担当していた知的障害のある母親と幼い娘が命を落としました。『なぜ救えなかったのか』。今も自らに問いかけています。

プロフィール

昭和56年生(40歳)
社会福祉士・精神保健福祉士・主任相談支援専門員
社会福祉法人リンク 理事長
岡山県相談支援専門員協会 会長



無料

定員 800名

※申し込み締め切り2/14(月)まで
(申し込み方法は下記参照)

防災と福祉の連携促進シンポジウム

地域で取り組む 高齢者・障害者の避難支援

パネルディスカッション

パネリスト

同志社大学社会学部教授
立木 茂雄

内閣府 政策統括官(防災担当)付
参事官(避難生活担当) 重永 将志

倉敷地域基幹相談支援センター
施設長 永田 拓

コーディネーター

兵庫県社会福祉士会
事務局長 西野 佳名子

参加の申し込みはこちら ▶

<https://www.e-hyogo.elg-front.jp/hyogo/uketsuke/form.do?acs=0218>



お問い合わせ先

兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課(防災企画班)

TEL: 078-362-9870 FAX: 078-362-9914 E-mail: bousaikikakuka@pref.hyogo.lg.jp
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1(兵庫県災害対策センター)

高齢者・障害者の避難支援



近年豪雨災害をはじめとする大規模災害が頻発しており、そのたびに高齢者や障害者が犠牲となっています。誰一人取り残さない避難のためには、当事者、行政、地域住民、福祉専門職等が密接に連携することが必要です。令和3年5月20日の「改正災害対策基本法」施行を受け、具体的な避難行動につながる、実効性ある個別避難計画作成が全国的に注目されています。

兵庫県では、ケアマネジャーや相談支援専門員などの協力を得て、平常時のケアプランやサービス等利用計画の作成に合わせ、地域とともに個別避難計画を作成する「防災と福祉の連携による個別避難計画作成促進事業」を令和元年度から実施しています。今回のシンポジウムでは、災害対策基本法改正を踏まえた地域との関わりや今後の事業取組について考えます。

プログラム

13:00	開会挨拶	
13:05	基調講演 防災視点の利用者支援の実際、防災と福祉の連携の重要性、避難行動促進への取組と効果的な手法 等	倉敷地域基幹相談支援センター 施設長 永田 拓
14:25	休憩	
14:35	パネルディスカッション 防災と福祉の連携による避難行動要支援者支援の国の動き、平常時から災害時につながる継続的な計画の理解、個別避難計画作成事業の今後の展開 等	〈パネリスト〉 同志社大学社会学部教授 立木 茂雄 内閣府 政策統括官(防災担当)付 参事官(避難生活担当) 重永 将志 倉敷地域基幹相談支援センター 施設長 永田 拓 〈コーディネーター〉 兵庫県社会福祉士会事務局長 西野佳名子
15:55	閉会	

大切な命を守るために個別避難計画を作成しましょう!

個別避難計画とは…

災害時、高齢者や障害者等の避難行動要支援者がスムーズに避難できるよう、一人ひとりの状況に合わせて事前に立てておく計画のことです。災害から命を守るためには、どのように避難するかを事前に計画しておくことが効果的です。

『兵庫県HP 避難行動要支援者に対する支援』

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk37/saigaijiyouengosha.html>

『内閣府HP 避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針の改定』

<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisayagyousei/youengosya/r3/index.html>



個別避難計画の詳細
及び書式は
兵庫県HPから
ダウンロードできます。

